



# MP RACING

## NAPAC FUJI SUPER TEC

ENEOS SUPER TAIKYU SERIES 2022 Powered by Hankook

### Round 2

カテゴリー : ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022  
Powered by Hankook ST-X クラス

エントラント : MP Racing

カーナンバー : 9

マシン名称 : MP Racing GT-R

ドライバー : JOE SHINDO・柴田優作・影山正美  
篠原拓朗・小泉洋史・井上恵一

大会名称 : ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022  
Powered by Hankook 第 2 戦  
NAPAC 富士 SUPER TEC

レース時間 : 24 時間

開催地 : 富士スピードウェイ (静岡県)

開催日 : 2022.6.3~2022.6.5

天候 : 晴れ (6.3) 曇り (6.4) 晴れのち曇り (6.5)

イベント動員数 : 4,500 人 (6.3) 16,900 人 (6.4) 16,700 人 (6.5)

公式予選 A Dr. : 1'43.841 (ST-X クラス 4 位)

公式予選 B Dr. : 1'40.281 (ST-X クラス 3 位)

公式予選 (A/B 合算) : 3'24.122 (ST-X クラス 4 位)

公式予選 C Dr. : 1'59.307 (ST-X クラス 5 位)

公式予選 D Dr. : 1'51.456 (ST-X クラス 2 位)

公式予選 E/F Dr. : 1'45.046 (ST-X クラス 2 位)

決勝 : ST-X クラス 5 位  
(24:02'20.725 / 684 周)

NILZZ  
RACING FACTORY

ENDLESS

Hankook  
driving emotion

CURIOSITY LTD.

TONE

FUNKY'S  
CATERING STATION

nismo

MOTUL

Mizuno

SUMMIT CARS®

GO&FUN  
GREEN ENERGY DRINK

株式会社 ご縁門  
Reform & Renovation



スーパー耐久第2戦”NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース (富士 24H)”が6月3日から5日にかけて、静岡県の富士スピードウェイで開催。

MP Racing は開幕戦鈴鹿大会をキャンセルしたため、今回の第2戦が2022年シリーズ初戦となる。

富士 24H は得られるシリーズポイントが高く、シリーズ戦はまだ2戦を迎えただけだが、タイトル争いをするには落とすことのできない重要な一戦。

スーパー耐久で最も過酷なレースに MP Racing はレギュラードライバーの JOE SHINDO、柴田優作、影山正美、篠原拓朗に、小泉洋史、井上恵一を加えた6名のドライバーで24時間レースを戦った。

### 6月3日(金) 予選

曇り空の下迎えた予選日。

予選はこれまで通り、A、B ドライバーの合算タイムで争われ、JOE と柴田がそれぞれにアタックを行う。

A ドライバー予選は JOE が 1 分 43 秒 841 でクラス 4 位。B ドライバー柴田は 1 分 40 秒 281 でクラス 3 位のタイムをマーク。合計 3 分 24 秒 122 で ST-X クラス 4 位のグリッドを獲得した。

C ドライバー予選中、天候の急変による降雨のため、一時赤旗中断となる場面もあったが、雨はすぐに止み、コンディションは回復。

影山、篠原、小泉、井上が決勝に向けた確認や準備を並行して予選を走行。全選手が基準タイムをクリアした。

### 6月3日(金) 予選

#### 6月4日(土)～5日(日) 決勝

厚い雲により太陽の日差しは隠されたが、蒸し暑さを感じる決勝スタート日。

華やかなセレモニーを経て、14 時 59 分 39 秒に 5 回目の 24 時間レースがスタートした。





スタートドライバーは JOE が担当。

まずスタートから 1 時間 18 分を経過した時点で最初のピットストップ。

JOE から小泉へとドライバー交代を行う。

小泉からバトンを引き継いだ影山は 2 ステイント連続でロングランを行う。

影山のステイント中にレースは日没となりナイトセッションに突入していた。

続く柴田も 2 ステイント連続走行を行い、MP Racing はここまで上位争いに食い込んでおり、レース展開は順調かに見えた。

しかしこれまで順調だった MP Racing に異変が発生した。

スタートから間も無く 6 時間を迎える直前に柴田から篠原へとドライバー交代を行なった。

深夜 1 時を過ぎた頃、篠原より『ギアオイルの油温警告がディスプレイに表示した』と無線が入る。

317 周目にピットへ呼び戻し、予定よりも早くメンテナンスタイムを消化し、修復作業を行なった。

ピットで修復作業は約 2 時間 20 分にも及び、柴田のドライブでチェックを行い、トラブルは解消された事を確認できた MP Racing はレースに復帰。しかしこれにより大きく順位を落としてしまう。

その後は大きなトラブルもなく周回を重ね、少しでも順位を取り戻すべく、前車との差は大きく開いてはいたが、諦めずに攻め続けていった。

13 時を過ぎて 629 周目、小泉から JOE へとドライバー交代。

JOE は約 1 時間をドライブし、これでジェントルマンドライバーの最低乗車時間をクリアした。

レースは残り約 30 分。MP Racing の最終ドライバーは篠原。

篠原のドライブにより 15 時 01 分 59 秒。MP Racing は 24 時間レースのチェッカーフラッグを受け、過酷な 24 時間レースを完走。

2022 年の MP Racing の初戦は 684 周を走破、ST-X クラス 5 位という結果に終わった。



昨年はチェッカーを受けたものの完走扱いにはならず、非常に悔しい 24 時間レースでした。  
 今年こそは、と意気込んでいましたが、不運に見舞われ、とても厳しいレース結果となってしまい残念です。  
 次戦以降、再び上位でレースができるよう、引き続き頑張ってまいります。  
 皆様ご声援、そしてご支援を賜りますよう、引き続きよろしくお願いいたします。

